

# 広報119

2012春号 vol.13



## テイクオフ！ 岩手県ドクターヘリ

東北では福島県、青森県、秋田県に次いで4機目。5月8日から本県でも運航が開始されました。

ドクターヘリは、岩手医科大学矢巾キャンパス内のヘリポートから医師、看護師が搭乗し、県内各地へ飛び、医師らが直接現場で処置を行います。

また、現場から医療機関に搬送するまでの間に、傷病者に救命医療を行なうことができるので、救命率の向上や後遺症の軽減効果が大きいと期待されます。

※写真は4月20日に行なわれた、ドクターヘリでの搬送訓練の様子

地域の防災は  
みんなの力で！

### ●●● 今後の行事予定 ●●●

5月 1日～31日	水防月間	8月 26日	消防設備士試験
6月 3日～9日	危険物安全週間	9月 1日	防災の日 防災講演会
6月 30日	危険物取扱者試験	9月 9日～15日	救急医療週間
7月 1日	一関市水防訓練	9月 9日	救急の日
7月 21日～22日	避難所生活体験研修会	10月20日	危険物取扱者試験

一関市消防本部のホームページ

WEB  
で検索

一関消防

検索

火災などの災害情報の問い合わせ

TEL 0180-991199

日頃の準備が身を守る 災害への備えを再確認しまじまじ

防災フォーラム

東日本大震災から二年を開催

三月十一日に一関市川崎町の川崎公民館ホールで開催されたフォーラムには、自主防災組織や婦人消防協力隊、消防団などから約二百五十名が集まりました。

初めに、盛岡地方気象台の岩渕佳文気象情報官より岩手県の気象災害と防災気象情報について、また、畠山康憲地震津波防災官より地震災害について話を聞きました。



川崎公民館ホールには250名を超える皆さんが集まりました。

講演の中で岩渕気象情報官は、「最近、十七kmごとに設置されている

アメダスでも観測できない、局所的な大雨が増加している。コンクリートで覆われた場所では、短時間の雨でも一気に水が低い場所に流れるので、地域の危険箇所を日頃から確認してほしい。」と話しました。また、畠山防災官は、岩手県や周辺の過去の地震被害などに触れ、「現在まだ



山目七ー南・北区自主防災会の阿部会長は、地域防火パトロールなどの活動について発表しました。

大震災の余震が続いている。地震防災では、地震前にできることを最大限することが大切であり、建物の耐震化や室内の家具の固定、避難所の確認、非常食糧の準備の他、家族の集合場所や安否確認の方法などについて決めておくことが重要です。」と話しました。

その後、自主防災組織の活動事例

として、山目七ー南・北区自主防災会の阿部孝行さんと藤沢町第二十四区自治会総務防災部の佐藤幸生さんが発表を行いました。阿部さんは、「平成十七年十一月より火防パトロールを定期的に開催し、防災意識啓発のため作成している防災だよりは通算七十二号になった。大震災の際は、地域の安否確認を行った。危険箇所の点検などの活動を、今後も継続して行きたい。」と話しました。

次に、佐藤さんは、独自の実践型防災訓練の様子を紹介し、「定期的な高齢者宅の訪問活動が、大震災での安否確認をスムーズに行うことに繋がった。今後も独自企画で活動を進めて行きたい。」と話しました。

災害対策本部設置訓練を開催

千厩地域千厩地区自治会

千厩地域千厩地区自治会の代表者十三名は三月四日、「自主防災組織での災害対策本部設置訓練」を千厩体育館で行いました。

訓練は、「平成二十三年度千厩地区民祭」の行事として行われ、三月四日午前七時二十三分にマグニ



示された状況に対して判断・行動を決める訓練に挑む皆さん

チュード七・八の地震が発生し、千厩地域で震度六強を観測した想定で、初動期に自主防災組織災害対策本部が行うべき状況把握・判断や行動を図上で疑似体験する方法で進められました。

「電気が止まっている」「電話が繋がらない」「負傷者が発生している」など次々に被害の状況が示され、これらに参加者が整理・分析・判断し、行動を決定し、その結果を確認する活動が行われました。開始直後は参加者が戸惑う場面もありましたが、訓練が進むにつれて判断が早くなっていきました。

参加した皆さんは、「難しい訓練だったが、今後地域でも実施してほしい」と話していました。

災害時の安全確認方法などを訓練

山目町地区自主防災クラブ

一関地域では、十二月四日に中里公民館で山目町地区自主防災クラブ（中里一から四区、蘭梅・大平区で構成）主催の防災訓練が行われました。当日は自主防災会・消防団・婦人消防協力隊などが参加し、NPO法人防災サポートいちのせきの会員などの指導を受けながら、民区の災害対策本部設置と運営の図上訓練の他、初期消火訓練、応急手当訓練などが行われました。

訓練後の意見交換で、千葉会長は、「東日本大震災では自主防災組



地域の地図を見ながら、被害場所などを確認する参加者の皆さん

織として何が出来るかを考えさせられた。役割分担をしながら訓練を重ね、次の災害に備え、防災力の向上を図って行きたい」と話していました。

地デジの河川防災情報をご利用ください

平成24年4月2日よりNHKのデータ放送で、河川の水位や雨量などの情報を確認することができるようになりました。

操作手順

- ①TVのチャンネルをNHKにあわせ、TVのリモコンの「dボタン」を押します。
- ②NHKデータ放送TOPメニューの「くらし安全」を選択します。
- ③青ボタンを押してメニューの「河川水位・雨量」を選択します。



シリーズ第十二回

子供の命を守るために

県立磐井病院 救急医療科長 片山 貴晶



ここ数年暑い夏が続き、熱中症の患者さんが急増しました。熱中症とは、暑熱環境で体が適応できなくなった状態のことです。軽症では発汗による塩分の喪失や脱水と、それによる血管の拡張によって起こる症状が主です。めまい、立ちくらみ、筋肉の痛みや硬直も起こることがあります。

重症いわゆる熱射病は、高齢者の日常生活で起こるものと、若い人の激しいスポーツや重労働などで起こるものがあります。高齢者では発汗が停止していることも多く、高齢者は屋外より

屋内で起こることが多いのが特徴です。中等症では頭痛や嘔吐、倦怠感などがあります。重症になれば、意識障害や全身性けいれんなどの神経症状があり、急いで治療をする必要があります。スポーツ中の熱中症は湿度が高い（六十%以上）と、気温が高くなくても（二十五〜三十度）重症化することもあるので注意が必要です。

暑熱環境での体調不良は、すべて熱中症の疑いがあることを認識しておく必要があります。仕事中の発症は、農業・林業、建設業で多く、注意が必要です。製造業での高温多湿環境も危険です。

予防の基本は、暑さを避ける、服装を工夫する、こまめに水分を補給する、急に暑くなる日に注意する、暑さに備えた体作りをする、個人の条件を考慮する、集団生活の場ではお互いに配慮することです。暑さに慣れること、つまり汗をかきやすい体質にしておくことも必要です。東南アジアの高温多湿な国々では、ほとんど熱中症がないことから重要です。

応急手当の基本は緊急事態の認識、安静、暑熱環境の改善、身体冷却、汗の蒸発と放熱の促進、水分と塩分の補給です。手足を水で冷やしたりすることは、血管を収縮させ、むしろ逆効果です。水分の補充は糖分を同時に与える方が吸収がよく、重炭酸やクエン酸を加えるとさらに効率がよいようです。スポーツドリンクにはこれらが含まれていますが、塩分が足りません。

過剰な水分摂取は水中毒となり、むしろナトリウム濃度が低下するため危険です。スポーツドリンク+食塩（一リットルに食塩小さじ半分程度）をお勧めします。食塩そのものの投与はよくありません。それでは皆さん、暑い夏を乗り切りますように。

● ● ● お知らせコーナー ● ● ●

**消防・防災セミナーをご活用ください。**

消防本部では、消防・防災・救急などの基礎知識や技術を普及するため、地域に署員が出向き講習を行うセミナーを開催しています。詳しくは各署・分署にお問い合わせください。



応急手当普及員も皆様のもとにお伺いします。

**突然の大雨  
集中豪雨に備えよう**

限られた地域に対して短時間に多量の雨が降ることを集中豪雨と言います。

梅雨から夏、初秋にかけての時期は前線や気圧の影響で集中豪雨がおこりやすくなっており、毎年全国各地で家屋への浸水、河川の氾濫、土砂災害等の被害が後を絶ちません。

**日頃から準備を**

集中豪雨が起きた際、素早く行動することが大切です。そのためには、日頃からの準備が重要です。自分の身を守るため、普段から次のようなことに心がけましょう。

- 1 自分の住んでいる地域で、どのような水害や土砂災害があったか確認しましょう。
- 2 いざという時の避難場所と避難経路を確認しましょう。
- 3 非常時の持ち出し物品を準備しておきましょう。また、置き場所を家族全員が知っておくようにしましょう。
- 4 テレビやラジオ、気象庁のホームページ等で気象情報に注意し、大雨警報や洪水警報が発表されたら避難準備をしてください。

- 気象庁ホームページ  
<http://www.jma.go.jp/>
- 川の防災情報  
<http://river.go.jp/>



発行日 ●平成 24 年 5 月 25 日  
編集 ●一関市消防本部  
〒021-0053 岩手県一関市山目字中野 140-3  
TEL (0191) 25-0119

**地域に根ざした長年の活動を表彰**

優良自主防災組織等表彰式

2月18日、一関市消防本部で優良自主防災組織等表彰式が行われました。これは自主防災組織等の活動の推進と地域防災力の向上を目的に、優れた活動を行っている組織やその指導者を毎年表彰しているものです。表彰を受けた方々は下記の通りです。(敬称省略)

**上申の部**

- 一関地域婦人消防協力隊  
分隊長 岡本 久子
- 一関地域婦人消防協力隊  
分隊長 佐藤 フミ
- 花泉町婦人消防協力隊  
分隊長 熊谷 千恵
- 松ノ木沢自治会(千厩地域)  
指導者 金野 富男
- 室根町婦人消防協力隊  
班長 小山 和子
- 第24区自治会総務防災部(藤沢地域)  
指導者 佐藤 幸生
- 平泉町婦人消防協力隊  
班長 岩淵 靖子

**応募の部**

- 山目地区7一南・北区自主防災会(一関地域)
- 山目五区自主防災会(一関地域)
- 青葉一区自主防災会(一関地域)
- 老松消防後援会(花泉地域)
- 岩ノ下地区自主防災会(東山地域)
- 第12区自治会防災会(室根地域)
- 平泉町第1区自主防災会
- 平泉町第9区自主防災会
- 平泉町第13区自主防災会



表彰を受けた皆さま

**避難所生活体験研修会参加者募集**

東日本大震災を振り返り、避難所の運営に参加体験し、避難者の役割等について考えます。

- 1 と き 7月21日(土)午後4時から  
22日(日)午前9時まで
- 2 と ころ 川崎体育センター  
(一関市川崎町薄衣字法道地 151-5)
- 3 定 員 100名
- 4 内 容 避難所運営体験等
- 5 問合せ 6月15日から受付を開始します。  
各消防署・分署へお申し込みください。



◇ **消防救助技術訓練** ◇

災害現場等で迅速・確実な対応をするための救助技術の習得と精神力の強化を図ると共に、消防救助技術大会等での上位入賞を目指して、今年も様々な救助法について訓練が行われています。

訓練は自由に見学できますので、お気軽にお越し下さい。



- 訓練日 平日9時30分～12時
- 場 所 一関東消防署 訓練場  
(一関市千厩町千厩字上駒場 360-9  
千厩アイスアリーナ隣)